

第2次伊賀市総合計画第2次再生計画(仮称)策定方針(案)パブリックコメントに寄せられた意見及び意見への対応

別紙

番号	該当頁	分野(箇所)	ご意見(原文のまま)	ご意見への対応	修正対応 (該当箇所)
1	P.1	1 策定趣旨 本市では、2004(平成16)年の合併時に第1次伊賀市総合計画を策定し、さまざまな施策の推進や事業の実施に取り組んできました。	さまざまな施策の中身を知りたいと思います。市民にも分かる具体的な表現の記述を検討してください。	具体的には、主に第1次再生計画の資料 事務事業一覧(p.181~199)に記載された施策や事業を指しますが、この項目では、具体的な施策の中身ではなく、計画策定に至るプロセスについて記述することが目的であるため、「さまざま」というシンプルな表現に留めています。	修正なし
2	P.1	1 策定趣旨 公平性・透明性のある市民主体の市政運営を基本に、市民目線で分かりやすいことを重視するとともに、簡素で効率の良いマネジメントサイクルによる市政運営を進めることとしています。	市は、第1次再生計画の中間評価・成果発表等の情報開示を行うことにより、市民から分かりやすい再生計画であると判断できることが必要です。 簡素で効率の良いマネジメントサイクルとは何かが市民目線で分かるようにすることが必要です。 市職員の勇気と覚悟を持った仕事を市民に示すためにも「計画の成果や実績などを事前、中間、または事後において、有効性、効率性などの観点から評価するため、行政評価制度を本格導入します。」の記述の方が良いと思います。	平成27年度より実施する行政総合マネジメントシステムに基づく平成26年度の行政経営報告書は既に公表しており、平成27年度分については、平成28年6月頃の公表を予定しています。 また、次期計画の策定にあたっては、市民にとって分かりやすい計画であることを目指しています。	修正なし
3	P.1	1 策定趣旨 第2次伊賀市総合計画は、市が目指す姿(将来像)やまちづくりの基本理念、それらを実現するために必要なまちづくりの政策を示す「基本構想」と基本構想に掲げる将来像を達成するため、まちづくりの政策に基づく根幹的な施策や事業を示す「再生計画」で構成しています。	市が目指す姿(将来像)と基本構想に掲げる将来像の二つの将来像が記述されていますが、将来像が二つあるのですか。 第2次伊賀市総合計画は、私たちが目指す将来像の「ひとが輝く 地域が輝く」「住み良さが実感できる自立と共生のまち」を実現するための「基本構想」と施策や事業を示す「再生計画」で構成しています。の記述の方が良いと思います。	市が目指す姿(将来像)は基本構想に掲げています。 ご提案内容を踏まえ、当該箇所を以下のように修正いたします。 第2次伊賀市総合計画は、私たちが目指す将来像である「『ひとが輝く 地域が輝く』伊賀市」を実現するための、基本的な理念や政策を示す「基本構想」と、政策に基づく根幹的な施策や事業を示す「再生計画」で構成しています。	一部修正
4	P.1	1 策定趣旨 「再生計画」は市長の任期を基本としており、2014(平成26)年から2016(平成28)年までの3年間を期間とする第1次再生計画では、「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」を基軸としながら、市民、自治組織、市民活動団体、企業、行政などあらゆる主体が連携・協力した分権型のまちづくりを推進してきました。	市長が変わっても、職員自らが立てた「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」を基軸とした計画が大きく変わることがあってはならないと思います。勇気と覚悟とやる気の自身を持った市職員がいれば、大きく変わることはないと思います。	計画期間を市長の任期を基本とするものであって、今回の策定方針(案)においても、第1次再生計画からの継続的な視点として、「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」による市政に引き続き取り組んでいくこととしています。 (p.2 3 計画策定の視点(基本的な考え方)参照)	修正なし
5	P.1	1 策定趣旨 第1次再生計画では、「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」を基軸としながら、市民、自治組織、市民活動団体、企業、行政などあらゆる主体が連携・協力した分権型のまちづくりを推進してきました。	推進されたと判断するのは市民です。市民目線では推進された実感がありません。	取組の成果については、行政評価や市民アンケートなどにより、複眼的・客観的に評価されるものと考えています。	修正なし
6	P.1	1 策定趣旨 第1次再生計画では、「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」を基軸としながら、市民、自治組織、市民活動団体、企業、行政などあらゆる主体が連携・協力した分権型のまちづくりを推進してきました。	伊賀市政再生のための指針の記述と同じであり、「推進します。」が「推進してきました。」に変わっているだけである。	第1次再生計画では、伊賀市政再生のための指針に基づき「ムダのない財政運営」と「市民目線・市民感覚による市政」を基軸としながら、市民、自治組織、市民活動団体、企業、行政などあらゆる主体が連携・協力した分権型のまちづくりを推進しています。	修正なし

番号	該当頁	分野(箇所)	ご意見(原文のまま)	ご意見への対応	修正対応 (該当箇所)
7	P.2	2 総合計画の構成及び期間	第1次総合計画は、平成18年～平成27年。第2次総合計画(基本構想)は平成26年～平成35年。第1次再生計画は、平成26年～平成28年。第2次再生企画は、平成29年～32年である。このように、計画の期間が複雑化しており、民間では通用しないと思います。	民間では通用しないとされる趣旨が不明ですが、第2次伊賀市総合計画は平成26年からおおむね10年を期間とした「基本構想」の中に、3～4年を期間とする「再生計画」が存在する2層構成となっており、「基本構想」には目指す姿(将来像)や理念など、「再生計画」には施策や事業などが示されています。 また、平成18年に策定した第1次総合計画は、平成26年に第2次総合計画が策定された段階で失効していますので、計画期間は重複していません。	修正なし
8	P.2	3 計画策定の視点 (1)基本構想における視点 ①「勇気と覚悟」	「勇気と覚悟」の言葉は、抽象的で、市民にとっては、とても分かりにくいです。	基本構想では、伊賀市の現状と今後の傾向として、人口の減少や地域経済の低迷、高齢化による社会保障費の増加により、かつてない厳しい財政状況を迎えること、また、そのような状況のなかでも、伊賀市に住む人びとが笑顔を保ち、活気ある地域社会であり続けるためには、市民、自治組織、市民活動団体、企業、行政等、みんながそれらを認識し、痛みを共有したうえで、それを土台としたまちづくりを担うことが必要であるとされており、このまちづくりに対する姿勢を「勇気と覚悟」という言葉で表現しています。	修正なし
9	P.2	3 計画策定の視点 (2)第1次再生計画からの継続的な視点 ①「市政の再生」 →ムダを省きながら効率的・効果的な市政運営をスピード感を持って行う	伊賀市政再生のための指針には、この計画において、「再生とは、ムダを省きながら効率的・効果的な市政運営を行うことはもちろん、市民の期待に応えるべくスピード感を持って取り組むことを意味します。」と記述されています。今回、第2次再生計画(仮称)で名称を変更するには、この「再生の定義」が適切でないという理由の開示が必要です。	第2次伊賀市総合計画は、「基本構想」と「再生計画」の2層で構成されており、今回策定しようとする計画は、「再生計画」の第2期にあたる部分です。よって、策定しようとする次期計画の名称は、前例を踏襲すると、第2次再生計画となりますが、一方で、現計画(第1次再生計画)の策定及び実施においては、「再生」という言葉が表す意味についてのご意見やご質問が多かったことや、これまで重点的に取り組んできた「市政の再生」に対する一定の総括等も次期計画に反映させていきたいと考えていることを踏まえ、現時点(策定方針(案)の段階)では、次期再生計画の名称についても計画策定における検討対象とし、パブリックコメントにおいて広く意見をお伺いしようとするものです。	修正なし
10	P.2	3 計画策定の視点 (2)第1次再生計画からの継続的な視点 ②「分権型のまちづくり」 →「ムダのない財政運営」+「市民目線・市民感覚による市政」	第2次伊賀市総合計画再生計画書の3ページには、同じ記述力所がある。表現内容に変化があれば市民に市職員の「勇気と覚悟」を感じるてもらえるのではないのでしょうか。	策定方針(案)では、目指す姿(将来像)の実現のため、次期計画の策定においては、基本構想と第1次再生計画における取組の視点を引き継ぎながらも、新たな視点を盛り込むとしており、具体的には① 第1次再生計画における取組の総括 ② 今般の社会情勢や新たな価値観などを踏まえ、検討するとしており、これら新たな視点に基づいた次期計画をお示しすることにより、「勇気と覚悟」を持ったまちづくりを、今後より一層、市民の皆さんとともに推進できると考えます。	修正なし
11	P.2	3 計画策定の視点 (3)第2次再生計画(仮称)における新たな視点 ① 第1次再生計画における取組の総括	「総括」ではなく、新しい総合計画策定方針に記述されている「第1次再生計画におけるPDCAサイクルの実践」の方が良いと思います。	第1次再生計画におけるPDCAサイクルは行政総合マネジメントシステムで実行しています。一方で、次期計画を策定しようとする現段階においては、第1次再生計画の実施期間である3か年の定量的な効果検証(PDCA)は不十分であることから、策定時においては、定性的な表現(総括)としています。	修正なし
12	P.3	4 策定体制 (1)庁内体制 ②プロジェクトチーム ・調査研究及び計画素案等の策定に関すること	市民ボランティアと市職員による素案作成プロジェクトチームを編成する。 チームは、2チームを編成、各チーム独自に案を作成、最後に一本に取りまとめる。 ※市内には、定年で仕事の一線を退いた方が、大勢おられる。この能力を持っておられる方々に呼びかけたら、すばらしい計画ができると思います。(ぜひ、検討をお願いします。)	市長が諮問する総合計画審議会には、公募市民の方にも参加いただいています。また、今後、中間案を策定した後、タウンミーティング等において、広く市民の方々と意見を交える機会を設けることを予定しています。	修正なし

番号	該当頁	分野(箇所)	ご意見(原文のまま)	ご意見への対応	修正対応 (該当箇所)
13	P.3	4 策定体制 (1)市民 ② 市民アンケート(まちづくりアンケート)の活用	伊賀市まちづくりアンケート調査では、PDCAサイクルの事業効果確認はできないと思います。 取り組みの事業対象者へのアンケート調査でなければ状況把握ができないと思います。	当該項目は、総合計画策定における市民の参画方法について記載しているものです。	修正なし
14		全体	市職員の視点での記述内容であり、市民の視点では理解しにくいです。 市の職員からは「伊賀市市民憲章」「伊賀市職員行動指針」「伊賀市人材育成基本方針」が遠くにあるように思います。 パブリックコメント募集だけでなく、事業対象市民に直接出会う機会を聞いてみることも必要ではないでしょうか。 このような事業効果確認のない計画は、一般社会や企業では通用しないと思います。	策定における今後の参考とさせていただきます。	修正なし
15		新しい総合計画策定方針 市政運営における簡素で効率の良いPDCAサイクルの構築を目指します。	新しい総合計画策定方針に記述されている左記のPDCAサイクルを実践されていると思います。ついては、第2次再生計画(仮称)のパブリックコメント募集より先に、第1次再生計画の中間評価・改善についての情報の開示が必要です。 P(計画)のパブリックコメント募集だけでなくD(実行)・C(評価)・A(改善)についてもパブリックコメント募集をすることで、更に、市民と市行政との情報の共有化が図れると思います。	同旨前述(番号2)	修正なし
16		第2次再生計画(仮称)	伊賀市総合計画地区別計画策定方針には、再生計画は、市長の任期を基本とし、第1次再生計画を3年間、第2次再生計画は4年間としています。と記載されています。 また、市内の全戸に配布された、第2次総合計画概要版の3ページには、第2次伊賀市総合計画は、めざす市のすがた(将来像)やまちづくりの基本理念、それらを実現するために必要なまちづくりの施策を示す基本構想と、基本構想に掲げる将来像を達成するため、まちづくりの施策に基づく根幹的な施策や事業を示す再生計画で構成しています。「再生計画」は市長の任期を基本とし、第1次再生計画を3年間、第2次再生計画は4年間の計画としています。と記載されています。 そして、今回のパブリックコメント募集文書には、「再生計画」で構成する「第2次伊賀市総合計画」を策定と記載されていますが、意見募集のタイトルは、第2次再生計画(仮称)になっています。 この一番重要と思われる(仮称)についての情報開示のないパブリックコメント募集は意味がないと思います。	同旨前述(番号9)	修正なし

第2次伊賀市総合計画第2次再生計画(仮称)策定方針 伊賀市総合計画審議会での意見及び意見への対応

番号	該当頁	分野(箇所)	ご意見	ご意見への対応	修正対応 (該当箇所)
1	P.1	<p>1 策定趣旨 公平性・透明性のある市民主体の市政運営を基本に、市民目線で分かりやすいことを重視するとともに、簡素で効率の良いマネジメントサイクルによる市政運営を進めることとしています。</p>	<p>「分かりやすいことを重視する」では、市民に人気があるような施策を重視するような感じに間違って解釈される恐れがあるのではないかと。</p>	<p>「分かりやすいことを重視する」が示す内容は、市民に人気があるような施策を重視することや、単に計画の表現方法を分かりやすくすることだけではなく、市の方針及び事業内容そのもの、並びに計画の体系や各主体の役割分担などについても、シンプルで市民にとって分かりやすい計画であることとしています。 ご指摘の趣旨を受け、該当箇所を以下のように改めます。</p> <p>第2次伊賀市総合計画は、(中略) 市民目線で分かりやすいものとするとともに、簡素で効率の良いマネジメントサイクルによる市政運営を進めることとしています。</p>	一部修正